



榊原地区の暮らしを支える見守り会議・研修会に参加してきました

↑生活支援  
コーディネーター

榊原地区社会福祉協議会は、永く親しんだ地域で安心して老後を迎えられるよう H19年度に住民による見守りチームを結成し、訪問や普段の生活の中での高齢者の見守り活動に取り組んでいます。研修会は広島文教大学の菅井教授をお招きし、これまでの活動の振り返り、今後も地域に根ざした活動を継続できるよう、学び合う場となりました。

## 榊原地区社会福祉協議会 暮らしを支える見守り研修会



広島文教大学  
菅井教授の講話より抜粋

生活支援  
コーディネーター通信  
※生活支援コーディネーターは  
地域のみなさんとともに地域  
での支え合いの仕組みづくりに  
取り組んでいます。  
令和4年  
8月15日  
Vol.27

『助け合いのまち』とは、いつでも、どこでも誰でもが助けを求めることのできる「まちのこと」  
『自立』とは、一人で頑張ることでも全部してもらおうことでもなく、必要な時に、「助けて」と言える人を増やすこと。

- そのために必要なこととして、次の3つが考えられる。
- リーダーたるものが率先して助けを求めてみせるべし
  - 助けられ上手さんを探しましょう
  - どれだけ協力者を地域の中でみつけられるか
- ・実は住民や地域の皆さんの多くがすでに知らず知らずのうちに、地域の困り事の発見や解決をしているかも！？
  - ・それを発見する手がかりとしてマップ作りが有効です。
  - ・遠方の家族は普段の生活を知らないため、やはり近所の方の気づきは大事にしたいです。



### 参加者の感想より

- ・今は二人暮らしだが、一人暮らし予備軍が増えています。
- ・いずれは自分も運転免許を返納することを考えると、今あるコミュニティバスをもっと活用していかないと、自分達が必要になった時には使えなくなってしまうかもしれないと心配です。
- ・5年後を見据えて考えていきたいです。



見守り活動を維持・継続させ、研修会で学んだことを今後の活動に活かし、いつでもどこでも誰もが気兼ねなく助けを求め合える地域づくりを目指していきたいと思えます。

【榊原地区社協 山川会長】



研修会後の見守り会議では、「隣付き合いを大切にしたい」「遠くに住む家族よりも身近な存在に」など、こんな地域でありたいという声がありました。この声と今ある気づきの目を大切に、研修会で学んだことを活かしていきたいと思えます。



↑生活支援コーディネーター